

野生動物との軋轢解消に向けた モデル集落づくりを進めています

森林動物系では併任先である森林動物研究センターのミッションとして「地域主体の被害対策」モデル集落を支援してきました。
 現在までの支援集落は200集落に及び、柵による防護と捕獲の双方をバランスよく進めた集落では被害の軽減効果も出ています。
 宍粟市の皆木集落は山腹の棚田が多く、耕作放棄地も増加するなど不利な条件の集落ですが、防護柵の管理と加害個体の捕獲を集落住民が主体的に進めたことで、被害はほぼ解消しました。



防護柵の研修



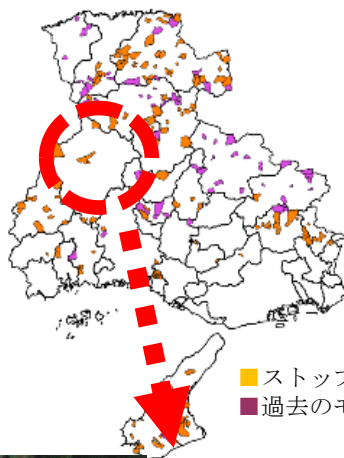
住民主体の檻管理



捕獲研修



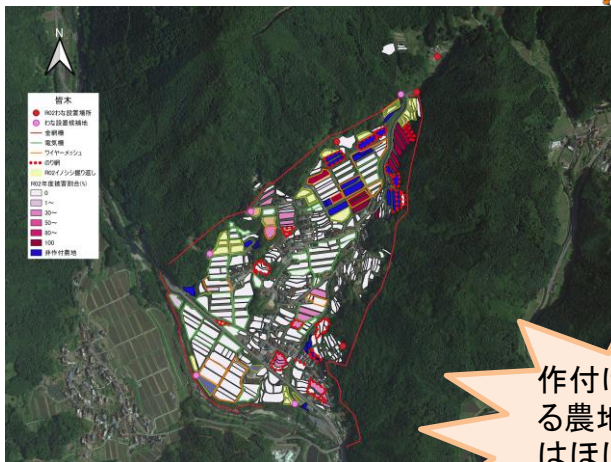
集落柵の管理



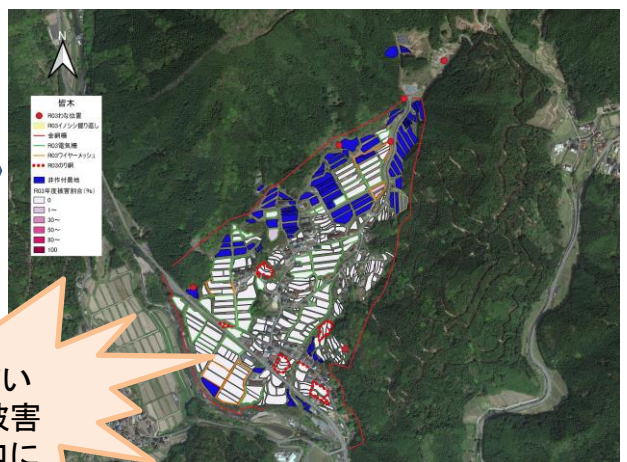
■ ストップザ獣害事業
 ■ 過去のモデル集落事業



加害個体の捕獲



R2年の被害



R3年の被害

作付けしている農地の被害はほぼゼロに